

平成 28 年 3 月 1 日

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

長崎大学附属図書館
後藤史彦

平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により，日本資料専門家欧州協会（European Association of Japanese Resource Specialists. 以下「EAJRS」）の第 26 回年次大会に参加し，発表を行った。以下のとおり概要を報告する。

1. 出張者

後藤 史彦（長崎大学附属図書館）

西菌 由依（鹿児島大学附属図書館）

2. 派遣期間

平成 27 年 9 月 14 日（月）～ 平成 27 年 9 月 21 日（月）

3. 訪問先

オランダ・ライデン大学ほか

4. 目的

欧州における日本資料の専門家（図書館員や研究者等）をメンバーとして，日本の資料や情報を普及促進させるための活動を行っている「EAJRS」では，内外の情報共有や連携推進のために毎年年次大会を開催している。第 26 回年次大会は，テーマを「**Breaking Barriers - Unlocking Japanese Resources to the World**」とし，従来あまり知られてこなかった一次資料を普及させるための取り組みに特に焦点が当てられた。

長崎大学が所有する古写真について，保存および公開の取り組みを紹介すること，合わせて他の図書館・博物館・資料館等の活動についての情報収集を行い，自館での今後の活動の参考とすることを目的とし，本大会へ参加した。

5. 内容

大会は，平成 27 年 9 月 16 日～19 日の 4 日間，オランダのライデンにて開催され，ヨーロッパや日本を始めとする 16 か国から 125 名が参加した。11 のセッション（シングルセッション）に，計 35 本の発表，ライデン大学図書館等の貴重資料見学が生まれ，あわせてベンダーワークショップ等も開催された。資料の紹介や，電子化・データベースに関する

発表が多く行われたが、取り扱う主題や時代、アプローチも多様であり、ディスカバリー・サービス等のような昨今の学術情報流通における動向とその対応に関しても言及があった。

長崎大学からは、「Nagasaki University's collection of old Japanese photographs and development of the 'Global Metadata Database of Old Japanese Photographs' (長崎大学の日本古写真コレクションと「日本古写真グローバル・メタデータ・データベース」構築事業について)」と題して発表を行った。

長崎大学は、国内最大級（約 7,000 点）の日本古写真を有しており、データベースなどを通して広く一般に公開している。発表では、その日本古写真のコレクションについての紹介を行うと共に、世界各地に点在する日本古写真の特性、さらには、フランスのギメ東洋美術館と共に構築している「日本古写真グローバル・メタデータ・データベース」の紹介を行った。なお、「日本古写真グローバル・メタデータ・データベース」の紹介では、長崎歴史文化博物館やライデン大学図書館といった国内外の機関とも協力することを考えており、将来、世界的なデータベースとなることを期待している旨も発表した。

6.成果および所感

筆者が発表した、長崎大学が所蔵する日本古写真コレクションの紹介と日本古写真グローバル・メタデータ・データベース構築事業などについては、発表後、多くの参加者から好意的な意見や感想をもらうことができた。これは予想以上の反響であり、コレクションやデータベースについて日本資料の専門家に広報することができたことは、今後の励みとなった。

他の発表では、発表者が所属する機関の取り組みや、資料の紹介、さらには個人の研究発表などが行われたが、海外からの日本の資料や情報へのアクセスについて、アクセスしづらく、説明が日本語しかないため分かりづらいといった意見が出ていたことが印象的であった。

発表において紹介された様々な事の中には、業務に反映させたいと思うことが多くあり、大変有意義であった。また、上記のように日本の資料や情報へのアクセスに関する意見を聞き、日本の資料といえども、海外からのアクセスについての配慮も必要性があることから、今後改善を図りたい。